

## 令和元年度 指定管理施設運営状況中間評価表

### 1. 施設の概要

施設の名称	むつ市ふれあい温泉川内、むつ市湯野川温泉濃々園、むつ市野平高原交流センター、むつ市まちの駅かわうち		
指定管理者	団体名	むつ市川内町商工会	
	代表者	会長 半田 義秋	
	所在地	むつ市川内町川内115-9	
指定期間	平成29年4月1日～令和2年3月31日（3年間）		
指定管理業務の概要	関係法令等を遵守し、利用者が快適に施設利用できるよう、施設の設備及び備品等の維持管理を適正に行う。 市民や利用者の意見、要望等を考慮し、平等に利用できるようにする。		

### 2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	年間計画額 ①	上半期実績額 ②	増 減 (②-①)
収入合計 (A)	30,381	18,003	△12,378
うち利用料金額	17,422	10,248	△7,174
うち指定管理料	12,959	7,755	△5,204
支出合計 (B)	30,381	17,195	△13,186
うち人件費	13,132	7,979	△5,153
収支差 (A-B)	0	808	808
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	野平高原交流センターの営業（4月～11月）収支が要因。		

### 3. 施設利用の状況

単位：人

	区 分	年間計画 ①	上半期実績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	ふれあい温泉川内	24,000	10,219	△13,781
	湯野川温泉濃々園	16,000	8,600	△7,400
	野平高原交流センター	22,000	16,620	△5,380
	まちの駅かわうち	18,250	9,125	△9,125
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施（有・無） ・施設の老朽化が指摘されている。（雨漏り、汚れ、寒い、タバコの煙など。） ※出来る範囲の修繕、清掃、喫煙場所設置を指示、実施している。 ・職員の接客マナーが良くない。 ※職員に注意し、接客の指導をした。 ※専門講師による、接客指導を実施した。 （・＝利用者の声 ※＝対応状況）				

## 4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収入	支出
オリジナルグッズ商品開発販売事業	727	187	94
ご当地メニュー開発販売事業	644	580	290

## 5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準 A（優良）：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果をあげることが見込まれる。

B（適正）：適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。

C（要改善）：指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の余地がある。

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	A	A
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	A	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	A	A
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	A	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	A	A
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	A	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	A	A
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	A	B
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	A	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	A	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	A	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	A	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	A	B

6. 指定管理者総合評価 ㊦自己評価をCとした項目についての改善策も記載すること。

道の駅かわうち湖の来訪者増加を図る為、SNSでの情報発信や、道の駅限定切符の販売や人気メニューダムカレーの販売促進を行い来場者数と売上の増進を図った。

また、ふれあい温泉・濃々園については、清潔な施設を心がけ利用者の満足度を高め来場者の増加による売上、収益の改善を図った。

ふれあい温泉の湯水や浴槽タイル修繕による休業は、収入減の要因となった。

7. 市の所管課総合評価 ㊦市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

ふれあい温泉が湯水により休館した際には、少しでも開館出来るように業者と密に連絡を取り合い対応していた。また、地域の行事等に合わせ、利用者が多いと見込まれる日には、臨時に開館するなど利便性の向上に努めていた。野平高原交流センターでは、ダムカレー、焼干し麺の中華ざるなど、ご当地メニューの提供により収入増を図る取組みに努めていた。全体的に施設の老朽化が著しいが、施設の大きな故障等はなく、日頃の維持管理や修繕が適切に行われていた。これからの冬期間は、利用者の減が予想されるが、今年度で指定管理期間が終了となるため、3月末まで多くの方に施設を利用してもらえるように、引き続き取り組んでもらいたい。